

# 卒業生インタビュー



## 樋口 陽子さん

61歳 エイチ・アンド・ワイズカンパニー  
代表取締役社長

ダーツ世界ランキング1位の実績！

夢をあきらめている人、夢を持つのが怖い人、夢を見失っている人たちに、自分の体験を通して夢にチャレンジする勇気を与えるメッセージを届け続けている。

### 自己流だから自信が持てなかった

私は普段から、話をして伝える場面がたくさんありました。

経営者として社員に、営業職としてお客様に、主婦として夫や子供たちにいるんな話を伝えてきました。でも本当は自信がなかったんです。自信満々なフリはしていましたけどね（笑）なぜ自信がなかったかというと、全部自己流だったからです。

他のスピーチ講座に通った経験もありましたが、私がスピーチをすると「素晴らしいですね〜」としか言われないんですよ（笑）もちろん嬉しいけれど、それ以上成長できない。私は、もっと伝わる話し方ができるようになりたかったんです。

だから、この話し方の学校で、具体的な改善のフィードバックをたくさんもらった時には感動しました。「すごい！こんな高いレベルで指摘してもらえる場所は他にはない！」ってすぐにわかりました。

### 上達したければ、プロに学べ

講師が鴨頭さんだったからというのも始めた理由です。入学体験講座の時に、非常にロジカルに、そして感性豊かに話をされていたのを見て、ここなら両方が学べると思いました。しかも、先生は単なる先生ではなく、現場で実際にスピーチや講演を行い、結果を出し続けている存在だったことも大きな理由です。「ここに来たら自分が望んでいるものが手に入る！」っていう確信がありました。

実際に受講して得られた価値としては、まず、自分のクセを知ることができたことですね。

これは大きいですよ。だって、自分の話し方って自分では気付けないんです。人の話し方はやたら気になるんですけどね（笑）でも、私の場合は、スピーチをしている時、自分ではみんなを見ているつもりだったのに、「今、陽子さんと目が合った人？」という質問に対して、誰も手を挙げてくれなかった時には驚きました。**やっているつもりのごとく、実際にできていることには大きなギャップ**があるんですよ。効果的な目線の使い方やコンテンツのつながり、そしてエピソードを気付きに転換する力など、多くの課題を指摘してもらいました。客観的な指摘って成長するためには、不可欠なことだと思います。もちろん改善するためにどうすればいいのかという、具体的なアクションも教えてくださるので取り組みの意欲があふれてきます。改めて思いました。**上達したければ「プロに学べ！」**ってことですね。



# 卒業生インタビュー

## 売らずに売れたのは、スピーチのおかげ

実は話し方の学校に通いながら、非常に悩んだ時期もありました。でも、振り返ってみると、その悩んだ時期こそが一番成長できた時だったなと思っています。私の場合は、**表現力が格段に豊かになりました**。先日「陽子さんの話す言葉って絵が浮かんでくるからイメージできて、すごく伝わります！」って言われた時は嬉しかった。自分の成長を感じることができて、**ますますスピーチが大好きになりました**。

自分の仕事でも大きな変化が起こってるんです。セミナーで『夢の叶え方』について話をしたら「ファンになっちゃいました！」「私も陽子さんみたいになりたいです！」って言ってもらえたんです。しかもこちらからは一切売っていないのに、会社で扱っている商品も売れてしまいました。1回のスピーチで5人もの方に「**スピーチでビジネスは変わる！**」を実感した瞬間でした。伝える力って、身に付いてみると**想像以上のすごさ**です！

## 同じ目線で話してくれる仲間に励まされた

会社経営をしているし、ダーツでは世界一になった。年齢的にもかなり大人なので、周りの人たちってなかなか思っていることを言ってくれないんです。でも、話し方の学校ではみんなが同じ目線でフィードバックしてくれるので、本当にありがたいと感じました。お世辞じゃない。**心から褒めてくれる仲間の言葉は**、何よりもの励みになりましたね。

## 「承認と応援」がここにはある

クラスメイトだけではなく、講師も真剣でした。生徒一人ひとりの可能性を信じてくれて、もっと良くなって欲しいという想いがめっちゃくちゃ伝わってくる。だから愛情ゆえの厳しさもありました。でもとっても身近に感じるんです。**先生と生徒の間に垣根が、壁がなかった**ですね。

これまで学んできたセミナーや研修では、教える側と教えられる側との距離みたいなものがありました。

でも、話し方の学校は、その距離がない。先生として教えてくれているんだけど、フラットで垣根がない。

だから**悩みも相談しやすかった**。今思えば、それは先生の思いやりだったんだなと感じます。真剣にストレートに付き合える大人の友情かな？！私達生徒一人ひとりがどうなりたかっかっていう思いを知っていて、その実現を力いっぱい応援してくれているのがいつも伝わってきました。

## 考え込まずに一歩を踏み出してほしい

私も「話すこと」についてずっと悩んでいました。もっと上手になりたい。もっと上手になれるはずだと思いつつ、「なんて私って下手くそなんだ」と迷ったり悩んだりしていたんです。私と同じように、悩んでいる人は、**考え込まずに一歩を踏み出してほしい**。話し方の学校に来れば、**理想の自分に近づくことができる**から。あんなふうになりたい、こんなふうに話したいと思いついている、そんな理想のあなたになれるんです。ぜひ、たくさんの人に一歩踏み出してほしいです。



# 卒業生インタビュー



## 梁本 和則さん

51 歳 株式会社三和 代表取締役

町の電気屋の救世主！

高校卒業後から電気製品を中心とした総合問屋に勤める。独立後、経営に悩んでいる町の電気屋を元気にするという使命のもと、日々奮闘している。

### 話し方の学校に出合っ、会社が発展した

経営者としてもっと会社を発展させたい。

その為には、今の話し方ではだめだと思っていました。

取引先のお客様との信頼関係をより強くするためには、自分の思いを伝える必要があるからです。

話し方を学ぶ所を探してみると、話すのが苦手な人向けの話し方教室はたくさん見つかりましたが、僕のように「**経営者が自分の伝達力をもっと磨く**」学びの場所はなかなか見つからなかった。そんな時、ちょうどこの話し方の学校に出会えたのはラッキーでした。「こじかない！」そう感じて学び始めたんです。結論から言えば、この選択は大正解だった。会社のターニングポイントで本当に必要なものを手にすることができたんです。僕は勝負に勝ちました！

### こんなにスピーチの法則があったなんて

スティーブ・ジョブズのスタンフォード大学のスピーチ解説が非常にわかりやすく、僕にとっては大きな価値がありました。というも僕の場合、うまくスピーチをする以前に、スピーチ原稿が作れずにいたからです。

話し方の学校で教えてもらうまでは、オープニング、ボディ、クロージングのツリー構造なんて聞いたことも考えたこともありませんでした。

なかでも、スピーチの WABDiWa=「誰に伝えるのか？」「その人は今どんな状態か？」「どの状態へ連れていきたいのか？」という技術を知った時は体中に衝撃が走りましたよ！「これだ！この法則どおりに作ったスピーチが伝わらないわけがない！」そう直感でわかったからです。

話し方の学校は単にスピーチがうまくなる場所じゃない。卒業した後も自分自身で「**伝わるスピーチを作り続けられる技術**」を学ぶことができる場所なんです。だから、卒業してからも社員の前で語るスピーチや、パーティーで求められるスピーチなど、次から次へと楽しみながらスピーチを生み出し続けることができています。

### 話し方の学校で学んで、経営理念を変えた

話し方の学校に通って、一番変化したことは、「会社の理念を変えた」ことかな（笑）

話し方の学校の最終日には、セミナー会社や出版社の方の前でスピーチをする機会がありました。

その「卒業スピーチ大会」の 20 分間のプレゼン原稿を作るためには、とにかく自分の内面と向き合う必要がありました。本当の想いをスピーチしないとすぐに先生にバレて突っ込まれてしまいますから（笑）なんとなく伝えたいことを話しても、その「なんとなく」という気持ち伝わってしまう。**過去の自分のスピーチが伝わらなかった真の原因がわかりました。**

でも正直、この「自分と向き合う」ことがつらくてつらくて仕方がなかった…。話し方を学びに来て、まさか会社の存在意義を考えることになるとは想像もしていませんでした。「自分は何のために事業を営んでいるのか」というのは、根本的で深い問いです。答え探しには、本当に時間がかかりました。

もちろん考えたことがなかったわけではありません。しかし、**この時ほど真剣に、自分の内面の奥深くまで向き合ったのは初めて**でした。それはもう逃げ出したくなるほどの経験でした。

# 卒業生インタビュー

でも、乗り越えた時…。僕は、大きな価値を手に入れることができたんです。

**会社の経営理念を変えるほど大きな気づきでした。**  
具体的には、「顧客第一主義」から「従業員第一主義」に変えたんです。根本から変わっていますよね（笑）  
新しい一文も加えることにしました。「私たちは全ての人が活き活きと働ける環境を作り、一人ひとりの夢が叶う会社になります」この言葉を書き起こした時は、新しい一歩を踏み出すことができた感動で胸が震えました。「これで次のステージに行くことが決まった！」と感じたからです。まさか「話し方の学校」で学ぶことで企業理念を変えることになるとは夢にも思いませんでしたけどね（笑）

## 社員に思いやりを持てるようになった

あの間い続けた時の苦しみは、一人では乗り越えられなかったと思います。**仲間がいたから、お互いを意識して切磋琢磨することができた。**みんなが頑張っているのを見て頑張れたし、落ち込んでいる人がいる時は、励ましたいという気持ちにもなりました。それから思い返してみると、自分よりも、仲間のことを考えてあげていた時間がたくさんあったと思います。たぶん「スピーチは相手への思いやり」と授業中に何度も何度も先生たちが言葉にしてくれていたから、自分でも気が付かないうちに、心の矢印が相手に向いたんでしょうね。

すると、学校の中だけではなく会社でも、**社員に思いやりを持って接することができるようになりました。本当に自分が変わってきた**と感じています。



## やればできる！ 自信がついた

何かうまくいかないことが起こった時、僕たちってつい人を変えようとしてしまうと思うんです。

でも、自分が変われば周りが変わる。周りを変えたいと思うんだったら、自分が変わらなくちゃ。話し方を通してそんなことも学ぶことができました。

伝わらないのは、相手のせいじゃない。自分ももっとわかりやすく伝えられれば、相手は受け取ってくれるってことを経験できたからだと思います。

つまり、話し方の学校で学んだことは、生き方そのものの。新しい考え方を知ったことで、自分の**視野は大きく広がりました。**

また、あきらめずに挑戦し続けて成長できたことは、**大きな自信**にもつながりました。今の自分には新しいことにチャレンジしていこう！という意欲と自信があるんです。

あ、それから、一人ひとりの良さが見えるようになった。これは、かつての自分に大きく欠けていた部分でした。それが今では**こんなに社員のことを考える経営者になれた。**それは、話し方の学校という場が、一人ひとりを見つめてくれる場所だったからだと思います。

## 噛んでみなくちゃ美味しいものには出会えない

話し方の学校で学ぶと、自分が見たくない自分や、気づきたくない自分に気づいてしまうことがあるかもしれません。僕がそうだったから。でも、頑張って乗り越えてほしいなと思う。**きっと新しい自分が見つかるから。**僕は50歳になってそれを体験したんですよ（笑）だからみんなもきっとできる。最後まで諦めずにやってみてほしい。

何でもまずは噛んでみる。噛んでみなくちゃ、美味しいものにも出会えない。まずかつたら出せばいいし、美味しかったら飲み込めばいいだけのこと。あ、ちなみに苦いなと思っても、よく噛めば甘くなって美味しくなるかもしれませんよ。

ちなみに、僕は90日中、89日は苦いと思っていました。そして90日目に、人生で味わったことのない美味しさを感じられたんです。